



品質保証 基本的な考え方

品質方針として、「保土谷化学グループは、取引先指向の品質第一に徹する」を掲げており、「製品、商品および委託製品」を通して取引先様の要望に応え、社会に対する貢献と社業の発展に資することを目的としております。

品質保証への取り組み

保土谷化学グループは、事実を把握し、事実から判断し、事実に基づいた行動にこだわることで、品質重視の思想を徹底し、お取引先様の信頼と満足に応える高機能、高付加価値の製品・サービスを提供します。

お取引先様の品質に対する満足を管理するため、品質保証活動を目的別に次の4つの体系に区分し、各体系に応じた必要な審査・監査・マネジメントシステムを通じて品質保証に取り組んでおります。

また、毎年11月の品質月間において、保土谷化学グループの全体行事として「全社QC発表会」を開催しております。QCサークル活動を通じて、製品・サービス・仕事などの質の管理・改善を継続し、サークル活動の成果を「全社QC発表会」で報告し、質疑応答を行うことで、自己啓発・相互啓発・職場の活性化につなげております。

品質の日

保土谷化学は、品質管理のいっそうの向上を図るため、2020年より、従来から品質強化月間としている11月のうち、原則第3金曜日を「品質の日」としております。

もともと保土谷化学は、「品質こそが信頼の源泉」を肝に銘じており、2018年10月に品質管理の機能向上を図るため、その役割および責任を明確にする観点から、「環境・安全・

4つの品質保証活動体系

- ① 製品の企画から安定生産までの品質保証活動体系
- ② 製品の定常生産業務における品質保証活動体系
- ③ 商品・委託製品に関する品質保証活動体系
- ④ 品質保証活動の見直しに関する活動体系



2020年度全社QC発表会

品質保証部」を「品質保証部」と「環境安全部」に組織再編してあります。

こうした取り組みの一環として、新たに「品質の日」を設け、保土谷化学グループの全役員・従業員が一堂に会し、「品質の誓い」を読みあげることであります。これにより、品質向上意識を喚起し、お客様の満足を満たしてまいります。

品質マネジメントシステム(ISO9001)

企業活動における品質に関する体制については、国際規格への適応が当然のことと認識される時代になってきております。保土谷化学は事業所単位の取り組みにより、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を全事業所で取得してきました。2010年には事業所毎に分散独立していたマネジメントシステムを統合し、さらに認証範囲を関係会社・協力会社まで拡大した保土谷化学グループとしての統合認証の取得を達成しました。またグループ会社の韓国SFC CO., LTD.も韓国の認証機関によるISOを取得しております。2017年には、

品質 マネジメントシステム2015年版へ移行し、2019年にはHODOGAYA CHEMICAL KOREA CO., LEDもISO9001の統合認証を取得、更新しました。

従前以上に強化された品質マネジメント体制の下、品質向上活動に保土谷化学グループ一丸となって取り組んでおります。

ISO9001:2015年版 品質マネジメントシステム	
認証機関	日本化学キューエイ
登録番号	JCQA-0184
適合規格	JIS Q 9001:2015 ISO 9001:2015
取得年月日	1996.12.25



化学品・製品安全 基本的な考え方

事業活動の基本に据える「レスポンスブル・ケア(RC) 基本理念」である「環境保全と安全・健康と品質の確保」に基づき、化学物質の使用および製品等への含有管理について社内規程を定めております。この規程は、化学物質の開発から製造・輸送・使用・廃棄の過程において、人の健康を損なうおそれ、または地球環境に影響を与えるおそれのある化学物質を自主的に管理することを目的としております。

化学物質マネジメント

環境保全、保安防災、労働安全衛生・健康、製品安全の面から、開発段階、原材料の調達段階、製造段階、使用・廃棄段階で、化学物質の管理を実施しております。管理は、対象となる化学物質を、国内法規、海外法規および「グリーン調達」等の取引先から要請された管理物質を加えたものです。「使用禁止物質」「排出制限物質」「製品等含有管理物質」の3区分に分類し、保土谷化学グループで取り扱う製品、原料

および化学物質情報を一元管理しております。

さらに、保土谷化学グループがグローバルに事業を展開していくため、海外の現地法人、駐在事務所との連携を密にするのみならず、さまざまな業界活動への積極的な参加等により各国の化学物質管理政策および法規制の最新動向を把握し、タイムリーな規制対応に努めております。

化学品のリスクアセスメント

保土谷化学グループは、事故・災害を防止するためのリスクアセスメントの実施手順およびその結果に基づくリスク低減対策実施手順を定め、リスクを明確に把握するとともに、的確に対策を実施することを目的とした「リスクアセスメント実施要領」を定め、定期的に実施しております。2016年度の労働安全衛生法改正に伴い、化学物質のリスクアセスメントの実施

義務がSDSの交付義務のある物質に拡大されたことに合わせ、実施対象を「作業のリスクアセスメント」と「化学物質取り扱い作業のリスクアセスメント」の2種類に分類した改定を行い、従前以上にリスクの明確化と的確な対策の実施が図れるようにしております。

 詳細はウェブサイトをご覧ください。 https://www.hodogaya.co.jp/csr/eco/chemical_product_safety/





Voice — 社員インタビュー

保土谷化学の製品は…



横浜工場 田口 大介

「保土谷化学の製品は品質が良いね」という言葉には2つの意味があります。

1つ目は文字通り、その製品の品質の良さを表しており、2つ目は保土谷化学ブランドへの信頼です。工場はお客様と約束した品質の製品を日々安全に生産し、お客様との信頼関係を築き、守っております。

私は染料の開発と品質検査業務を行っております。

近年ではスペックだけでなく、より安全性の高い染料を求める声も多く、開発部ではより安全性の高い物質を用いた製品開発にも取り組んでおります。

今後も、お客様を満足させられる品質・安全性の新製品を開発し、検査業務で製品の品質を確認することで、「保土谷化学の製品は品質が良いね」と言われるような信頼関係を築き、守っていききたいと思います。



労働安全衛生・保安防災 基本的な考え方

保土谷化学グループは、「労働安全衛生は生産活動の原点である」ことを最優先とし、ゼロ災害に向け、安全衛生関連諸法令の遵守を徹底しております。労働安全衛生、保安防災を推進するため、関連諸法令に基づいた保土谷化学グループが行うべき基本事項を、「安全衛生管理規程」「防災規程」および「物流安全管理規程」に明記しております。

労働安全衛生の取り組み

「安全衛生管理規程」は、全従業員の労働災害並びに健康障害を防止するための、安全衛生管理に関する基本事項を定め、労使が協調して職場における全従業員の安全と健康の確保とともに、より快適な作業環境の形成を促進しながら作業遂行の円滑化を図り、生産性の向上に資することを目的としております。

また、2012年2月3日に発生した、横浜工場の火災事故における教訓を風化させず、安全文化の向上を目指し、安全な

事業体制の構築を、グループ全従業員で共有するため、毎年2月3日をグループ「安全の日」としております。



無事故・無災害への挑戦

「地域・社会に対して、環境保全を含む安全・安心を提供する」ことを基本として活動しております。「無事故・無災害」に向けた取り組みの強化として、全従業員への「安全意識」の浸透および危険を感知する「感受性」の高揚に努めております。従来からのKYT（危険予知訓練）およびPYT（プロセス異常予知訓練）活動の継続、事業所内での安全パトロール・3S（整理・整頓・清掃）巡視、事業所間での相互視察を行い、安全意識の

向上に努めております。また、RC活動内部監査では、5ゲン主義（現場・現物・現実・原理・原則）による活動へ展開し、メカニズムや法則の原理、物事の決まりごとや規則などの原理を含めた安全対策、安全教育を展開しております。

2020年度は、引き続き各施策の取り組み強化を継続してまいりましたが、協力会社における休業災害ゼロは継続したものの、保土谷化学グループ従業員の休業災害が1件発生しました。

休業災害の発生状況

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5ヵ年平均
保土谷化学グループ	発生件数	1	4	0	0	1	1.2
	被災者数	1	4	0	0	1	1.2
	休業災害度数率*	1.00	3.90	0.00	0.00	0.92	1.16
会協社力	発生件数	0	0	0	0	0	0
	休業災害度数率	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

※休業災害度数率とは、100万労働時間あたりの被災者数の発生頻度であり、以下の式によって算出されます。
度数率＝被災者数／延労働時間数×1,000,000

緊急時の対応

「防災規程」では、緊急時の連絡通報、組織編成や緊急時に備えた教育訓練などの対応が定められております。教育訓練は、事業所内における事故発生などの緊急時に迅速な対応が

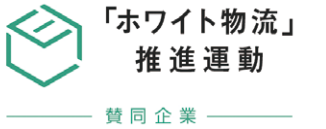
取れるように、定期的な防災訓練、消火器訓練、消防署と合同の救急救命訓練などがあります。また、各工場は地域の消防防災操法大会に積極的に参加しております。

物流安全への取り組み

保土谷化学は、2021年1月、国土交通省・経済産業省・農林水産省が提唱する「ホワイト物流」推進運動^{※1}の趣旨に賛同し、「ホワイト物流」推進運動事務局に自主行動宣言を提出しました。自主行動宣言では、物流の効率化やモーダルシフト等の運送内容の見直し、契約の適正化、安全の確保を取り組み項目に掲げております。

安全の確保は、グループの製品等に関わる物流における事故・災害の防止と事故・災害発生時の措置についての基本事項を定めた「物流安全管理規程」に従い、物流関係者をはじめ地域住民の方々の安全・健康を確保するとともに地域環境の保全を図っております。万が一、危険物の輸送時に事故が起きた場合に、適切に対処することができるよう、措置、

通報情報等を記載したイエローカード^{※2}を輸送業者に対して交付するなど、安全対策を講じております。さらに、荷役作業時の安全確保、異常気象時の適切な運航判断も実施するようしております。



※1 「ホワイト物流」推進運動
深刻化する運転手不足に対応し、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に寄与することを目的とし、特にトラック輸送の生産性の向上・物流の効率化や、女性や高齢の運転者も働きやすい労働環境の実現に取り組むものです。

※2 イエローカード
危険物輸送時の事故に備え、事故発生時の応急処置や災害拡大防止措置等を記載したものです。

調達活動 基本的な考え方

保土谷化学グループは、「調達方針」の下、調達活動を実施しております。この方針には、公正で誠実な取引を行うことに加えて、環境への配慮、相互コミュニケーションの深化という持続可能な調達の観点を組み込んでおります。

調達方針

保土谷化学グループは、「調達方針」および「調達ガイドライン」を制定しております。「調達ガイドライン」の遵守をお願いすることにより、お取引先様とともにESG（環境、社会、ガバナンス）に対応したCSR活動を推進しております。
「調達方針」および「調達ガイドライン」の詳細は、ホームページに掲載しております。



調達方針はウェブサイトをご覧ください。
<https://www.hodogaya.co.jp/company/philosophy/#a8>



■調達方針

- ① 法令・社会規範の遵守
- ② 環境に配慮した調達活動の実施
- ③ 公正な取引機会の提供
- ④ サプライチェーンとのコミュニケーションの深化



調達ガイドラインはウェブサイトをご覧ください。
https://www.hodogaya.co.jp/wp/wp-content/uploads/2018/09/guideline_20180918.pdf



CSR調達

購買部門では、CSR活動と一体になって、原材料の調達活動を推進しております。経営状態が健全であり、継続的取引が可能であるお取引先様をグローバルな視点で探索し、強固なサプライチェーンを構築するよう努めております。特に、原材料毎に複数の調達先の確保、調達国の多様化に取り組んでおります。保土谷化学グループ「調達方針」に基づき、原材料の

化学物質管理や環境負荷の低減ならびにサプライチェーンにおける人権の尊重など、環境・社会・ガバナンス等の社会的要請への適合をお取引先様にご理解いただき、お取引先様への訪問監査、アンケート調査などを実施し、相互理解の深化と信頼関係の構築に努めながら、持続可能な調達活動を行っております。